

<海外労働事情調査団感想文>

デンマークの安心と公共

＝環境と公共交通について＝

調査団の日程を無事終えて、コペンハーゲンの空港を飛び立つと、眼下は海上だった。沖合に一群の白い橋桁のような物がまっすぐに連なっているのが目に入ってきた。なんと数百メートルは続く風力発電の風車の列だった。数え切れない程の風車の列が陸とほぼ並行に伸びている景色には、さすが環境先進国といわれるデンマークだと機内で納得しながら、その景色を窓から眺め続けた。その後もあちこち陸上、洋上で風車群を見た。

帰国して調べたら、デンマークでは国内電力消費量の10%を超す発電を風力発電でまかなっている。近い将来50%を目指して、風力発電設備の洋上建設を更に促進するという政策だ。デンマークが風力発電に適した自然環境というだけでなく、持続可能な社会をめざし、エネルギーの自給自足と環境保護のための自然エネルギーとして風力発電を位置づけている。デンマーク政府も、かつては原発建設を進めようとしたが、議会は原子力計画を放棄し、現在まで一つも建設されていないという。

デンマークの道路は車道、自転車道、歩道に区分けされている。駅はもちろん市内には駐輪場や貸し自転車のターミナルもたくさんあり、ベビーカーや電動車椅子は当然だが自転車も電車にそのまま載せて移動できる。地下鉄入口には自転車用ガイドレールが設置されており、そのままホームまで降りて車内に乗り込める。(もちろん、エレベーターやエスカレーターでもOKだ)

更に驚いたことには地下鉄・鉄道の駅には改札口がない！いずれもホーム、車内には(切符なしでも)自由に出入り・乗降できる。しかし無料というわけではなく、自動券売機で乗車券は購入して乗車することになっているが、検札は来ないし、駅員の監視もない。無賃乗車は可能だが、そういう人はいないそうだ。ペナルティもあるが、むしろ高いモラルを感じる。道路と電車だけでも日本では考えられないことばかりだった。

また、市内のバスは全て黄色で統一されたデザインの大型低床バスで、車イスやベビーカーもラクラク乗り降りできる。運行表を見ると市内をくまなく網羅しているのが分る。HUR(コペンハーゲン周辺の自治体で構成する官庁?の交通部署=日本で言えば市交通局)が計画的に市内バス路線を一元的に管理運営している。

バス事業者全体のネットワークと管理は、このHURにより行われている。運賃収入に加え当然、国、自治体からの補助金で運営されている。デンマークやヨーロッパ諸国では、公共交通に税金をかけることへの国民の合意ができています。市民の足としての公共交通の位置付け方が日本とは全く違うことを実感する。

地下鉄に乗って、Orestadという開発建設中のニュータウンまで行ってみた。Orestad地区の開発公社(Orestadsselskabet)がコペンハーゲン市の地下鉄を建設・運営している。市が55%、デンマーク政府が45%の出資で1993年に設立された。市南部に位置するOrestad地区の広大な未開発の土地を市が無償譲渡、開発した土地の売却益等によって地下鉄を建設した。また、運営経費についても運賃収入でまかなうのは全体の約30%で、あとは不動産売却益から50%余りが充てられる(その他は負担金等)。このように市からの補助金は必要ない仕組みができており、更にこの開発公社はこのニュータウンで大学、病院、放送会社、文化省庁、高等学校やさまざまな都市施設・公園などの都市作りを管轄している。

地下鉄は2002年にこのニュータウンを経る一次区間が開業し、更に延伸2次区間が開業し現在17駅16.8kmが営業運転。さらに空港に至る区間を工事中で2007年開業の予定だ。車両には、車いす・ベビーカー・自転車用スペースが設置されており、車いす使用者が開扉時間を延長させるボタンや呼び出しボタン等、最新の安全対策が施されていた。車内は広く静かで乗り心地も快適だった。Orestad駅は地上駅（高架式）で、ガラス屋根、ホーム上全域に待合室が設置されていた。

以上、公式日程から外れた報告ばかりでしたが、公式訪問のデンマーク労働総同盟（LO）での「デンマークモデル」について、移民・外国人労働者政策についてのお話からは多くの事を学ばせていただきました。

この調査団に参加して、「豊かな生活」とはどういうことか、社会が市民に保障すべきものを、安心感、期待感の高い社会の姿を垣間見ることが出来たかと思えます。また、私が職場から持参した宿題についても「公共交通が都市機能として国・自治体の責任で確保・運営され」「市民がその利便を享受している」姿を現地で確かめることが出来たことは得難い経験でした。

社会の安全・安心、公務公共サービスについて、この視察で見聞きしたことを是非訴えていきたいと思えます。それにしても25%の消費税は、（空港で還付手続きをしなかった私にとっては）痛いことでしたが、定住する人にとって教育も福祉も医療にも負担がないことは何よりだと思いました。

この調査団の派遣にお骨折りいただいた関係の皆様方に改めて感謝申し上げます。

（太田光二）



Orestad 開発地区の高架線を走るMetro地下鉄



地下鉄のOrestad駅ホーム（地上駅）



Orestad 地上駅（高架式）



HURの市バス



Norreport 駅 の駐輪場